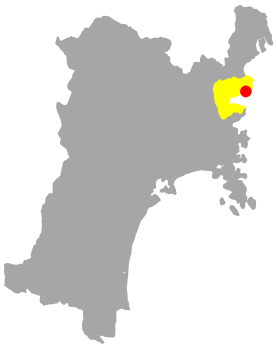
17 こだわりの卵をより多くの方へ！震災がきっかけとなった自然卵

1 被災後、新たに養鶏の道を選んだ大沼代表　2 小松菜など地元産の原料を自家配合した飼料を給餌　3 被災した自宅

（しぜんらんのうえん）
自然卵農園
株式会社

設立年月日	平成25年３月
経営規模	採卵鶏 約400羽
代表者	大沼 清功（代表取締役）
構成員等	代表＋社員２名
所在地	南三陸町歌津字田表15
TEL	0226-25-9799



活用した主な事業

・宮城県震災復興起業支援事業
「新たな一歩プロジェクトみやぎ」

経営概要

自然卵及び卵加工品（クレープ、プリン）の製造・販売

妻のクレープ作りへのこだわりから養鶏の道に

東日本大震災前、南三陸町で建築関係の会社員だった自然卵農園株式会社の大沼清功代表取締役。娘さんのアレルギーをきっかけに、子供が安心して食べられるおやつを提供したいと、妻のあかねさんが平成16年から自然卵（平飼いで配合飼料や抗生物質等を使わない鶏の卵）を使ったクレープの移動販売を始めた。次第に、大沼代表自身も、「卵への関心が深まり、抗生物質や配合飼料を使わない自家配合飼料による平飼いの養鶏にチャレンジしたいという気持ちが生まれた」と自然卵との出会いを語る。

クレープ販売を拡大すべく自宅敷地に自力施工で加工場を作った矢先、東日本大震災の津波が襲った。自宅と加工場は流され、会社も被災し辞めざるを得なかった。「避難所生活は過酷だった。避難所を取材に北海道から来た記者と知り合ったことがきっかけで北海道江別市へ避難したら、偶然にも市内に自然卵農場があり、そこに弟子入りすることになった」。北海道でもクレープ販売の意欲を失わなかったあかねさんの「クレープに最も大事な材料は卵」というこだわりが後押しとなり、「これはきっと運命に違いない。ここで勉強して、南三陸町へ帰って養鶏をやろう」と大沼代表は決心した。

しかし、北海道の師匠から言われたのは、「養鶏は理想と現実のギャップが大きい。生き物は思い通りいかないし、こだわりは消費者に伝わらないからやめた方がいい」という言葉だった。思いがけない言葉だったが大沼代表の決心はゆるがなかった。

■自力施工した鶏舎第１号

師匠の言葉を実感

北海道で約１年半養鶏のイロハを学び、南三陸町へ戻った大沼代表は宮城県震災復興起業支援事業「新たな一歩プロジェクトみやぎ」を活用し、平成25年に自然卵農園を設立。自力施工した鶏舎で養鶏を始めた。また、クレープの移動販売を再開し、南三陸町の復興商店街にも出店。「養鶏を開始した１年目は、近隣の復旧工事によるストレスで約100羽のうち８割が死んでしまった。令和元年の台風19号では、道路排水が鶏舎に流れ込み、若鶏が全滅した」。まさに、師匠の言葉を実感することとなった。

数々の困難に直面にしながらも飼養羽数を伸ばし、現在は400羽に達している。生産した卵の９割はクレープやプリンに使用し、１割をテーブルエッグ（生卵）として販売している。卵１個50円の販売価格はスーパーと比較すると高いが、品質が評価され少しずつ販売は伸びてきている。しかし「１個50円でも採算はとれていない。販売に影響がでると思うと値上げには踏み切れない」と大沼代表は悩む。

大沼代表が育てた自然卵（写真右）と、それを使ったあかねさんのクレープ

ふるさと納税返礼品にもなっているプリン

自家配合飼料にこだわり 人とのつながりが増えた

「非農家出身でゼロから養鶏を始めて８年。鶏の動きや声の意味がわかるようになってきた。ようやく満足できる卵を作れるようになった」。自然卵農園では、鶏のストレスをできるだけ少なくし、天然水、ワカメ、小エビ、小松菜、ほうれん草、米、麦、果物、カボチャなど全て地元産の原料を自家配合した飼料を与えている。これらは地元の方々の協力が不可欠。「養鶏を始めて、人とのつながりがものすごく増えた。それも助けてくれる人ばかり」と大沼代表は語る。

こだわりの卵をより多くの人へ届けたい

復興商店街、移動販売とも好調であったクレープ販売は平成29年の復興商店街移転に伴い、移動販売が中心となった。しかし、安心して食べられるおやつを多くの人に提供したいという想いから、令和２年には仙台市中心部にクレープ店を出店し、売上げを伸ばしている。それに伴い卵が不足気味となってきたことから、経営規模を現在の400羽から徐々に増やし、最終的には１千羽を目指している。「クレープ用だけではなく、テーブルエッグの販売も伸ばしていきたい。規模拡大のため、新たに土地を借りるメドがついた。これからが勝負」と大沼代表は次のステージを見据えて力強く語る。

クレープ販売中のキッチンカー

復興の軌跡

平成16年
- クレープ移動販売開始

平成23年
- 東日本大震災
- 北海道へ避難

平成25年
- 自然卵農園(株)設立
- 鶏舎第１号完成（50羽導入）
- 鶏舎第２号完成（100羽導入）
- 復興商店街クレープ販売店開店
- 移動販売再開

令和元年
- 台風19号による被害

令和2年
- 仙台市青葉区に新店舗開店

「東日本大震災からの復興の基本方針」で示された戦略に照らした **経営の特徴**

- ●高付加価値化　平飼いと自家配合飼料による「自然卵」の生産、「卵加工品」の製造
- ●低コスト化　地元産原料 100%使用の自家配合飼料給与、鶏舎の自力施工
- ●経営の多角化　クレープ店等の経営